

SKYMENU 活用授業 実践レポート

名前	園田 美樹	学校名	習志野市立実籾小学校
実施学年	小学校2年	教科	国語
単元名	「本でしらべよう ～ 「生きものクイズ」でしらせよう」		

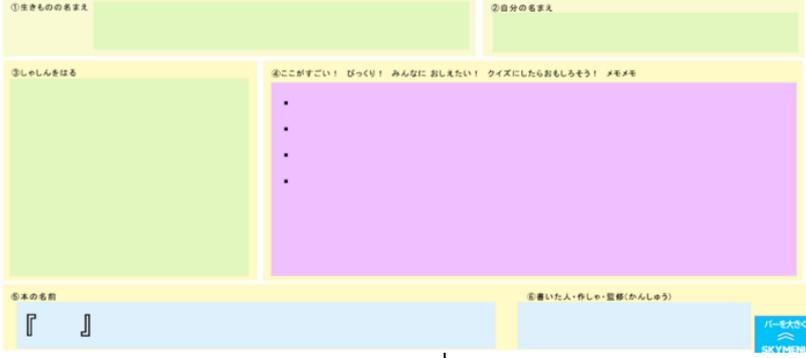
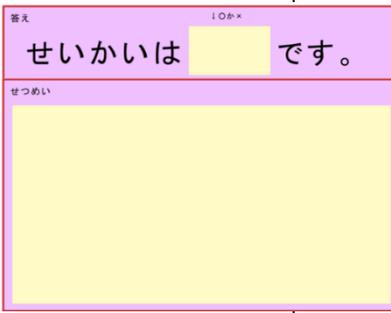
《学びを深めたいポイント》

- ・この単元は、興味をもった生き物について本で調べて、その生き物についてクイズで知らせる学習である。
- ・単元の導入で、自分の好きな生き物を選び、初めて知ったことや、驚いたことを中心にまとめることで、進んで学習に取り組むことができると考えた。
- ・〇×クイズや3択クイズで生き物を紹介することで、まとめたことを生かすことができるだけでなく、「どうしたら回答者が迷ってくれるか」「どうしたらその生き物の魅力についてより深く知らせることができるか」など、より深く思考することができると考えた。
- ・クイズを友達と見合う学習をすることで、より自分のクイズに自信をもったり、改善する部分を見つけたりすることができると考える。
- ・たくさんの人に自分のクイズを出題する活動を通して、自信をもって話すことができるようになったり、友達のクイズで、他の生き物について興味をもったりすることができる。
- ・この学習を通して、主体的に学習に取り組み、問題解決しようとする力を育てていきたい。

《SKYMENU 活用のポイント》

- ・写真や絵と共に調べた生き物について発表ノートで記録をした。自分の好きな生き物を選び、驚きや発見をまとめる学習は、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・〇×クイズと3択クイズの形式を作成して、発表ノートで配布した。
- ・生き物についてまとめたことを基に、発表ノートで配布したクイズ用の枠に入力した。自分で枠を作ってまとめる良さもあるが、低学年ではある程度型を決めて、背景化して動かなくしたものを配布した方が取り組みやすかった。
- ・タブレット端末で作成したことにより、絵が苦手な児童も写真を挿入でき、描きたい児童は絵を直接描くことができたので、より得意な方法や取り組みたい方法で行うことができた。
- ・クイズの出題練習や発表会を行った。出題者は、見せたい写真を直接見せることができ、回答者もわかりやすく、たくさんの歓声が上がった。
- ・本からタブレット端末にまとめ、タブレット端末で作ったクイズを印刷しクイズの本にした。印刷して手に取ると、自分がこの本を作ることができたのだと、感動する姿が見られた。

《実践内容》

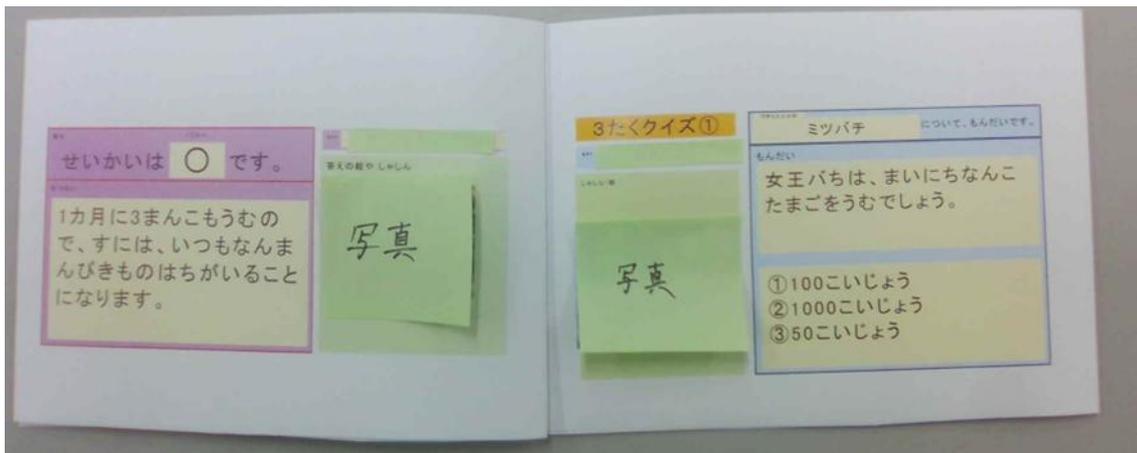
	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<p>・前時までの学習を確認する。 (本を読んで驚いたことや初めて知ったことなどを発表ノートにまとめた。)</p> <p>・本時の学習問題を確認する。</p> <p>調べたことを、楽しく紹介しよう。 ○×クイズと、3択クイズで、その生き物について知らせよう。</p>	<p>・前時にまとめた発表ノートを紹介する。</p> 	<p>・よくまとめることができている児童のノートを選び、テレビに映して共有する。</p>
展開	<p>・クイズを考えて、発表ノートに入力する。</p> 	<p>・前時にまとめたものを見ながら、何をクイズにするか考える。</p> <p>・実際に発表ノートの枠にクイズをまとめていく。</p> 	<p>・背景化して動かなくした発表ノートの枠を配布し、取り組むことで、低学年でも簡単に入力できるようにする。</p>
	<p>・入力が終わった児童から、間違い直しを含めた見合い(問題の出し合い)をする。</p>	<p>・「発表ノート」の画面を見せながら、実際にクイズを出しあう。</p> <p>・誤字脱字や、意味のわからないところがないか、確認し合う。</p>	<p>・タブレット端末を使って発表することで、写真を見せることができ、伝わりやすくなる。</p>
まとめ	<p>・よい問題の出し方をしているクイズをいくつか紹介し、共有する。</p> <p>○適応問題を解く</p>	<p>・児童の発表ノートをテレビに映し、共有する。</p>	

《実践を振り返って》

- ・発表ノートで調べたことをまとめることで、一人ひとりが課題意識をもって学習に取り組むことができた。
- ・グループで、発表する際、絵を描くよりも写真の方が伝わりやすい。クイズ出題の際も、伝えたいことを直接見せることができる利点があった。
- ・低学年はタイピング（フリックや手書きを含む）に時間がかかるので、手書きとタブレット端末と選択できるようにしてもいいのではないかと考える。実際取り組んでみると、タブレット端末でまとめたいという児童が多いが、取り組んでみると、手書きの時よりも文の長さが短くなる傾向があると感じた。
- ・文字を正しく書くことや絵を描くことが苦手な児童にとっては、タブレットで学習をすることはとてもやりやすかったのではないかと考える。
- ・「ポジショニング」は、国語や道徳、学活で、登場人物や対象者の気持ちの変化を捉えたり、その考えを共有したりするのに有効だと考える。
- ・気付きメモは、どの教科でも使用しやすいと思うが、直接話し合う利点と、タブレット端末で記録に残る利点があるように感じる。効果的に使えるように計画していきたい。
- ・今後、児童が学習の中でタブレット端末を表現や思考の一つのツールとして選択できるように、様々な使い方を教え、使えるようにしていきたい。

資料

①児童が作成したクイズ



②印刷して本にした際の表紙（絵や写真）と裏表紙（クイズ発表会の感想）

